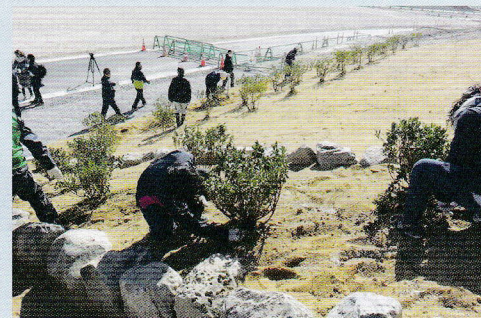


震災・原子力災害と向き合った福島県の人々の証言！
海と共に生きてきた町・人は災害にどう立ち向かったのか！

海を取り返す

—原子力災害と向き合う—



津波被害と原子力災害は、多くのものを人々から奪った…。
だが、そこに生きる人々は、地域にとどまり、誇りを持って、新しいまちづくりの契機、転換点にしようと闘っている。
そこにある新しい取り組み。原子力災害と向き合いながら、地域の未来を拓こうとする人々の証言は、自分たちの町、自然環境、生活を守り、次の世代へつなぐことの大切さを伝えている…。

上映時間 16分 [C#7499]

DVD 本体価格 66,000円(税抜)



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

海を取り返す —原子力災害と向き合う—

企画 意図

原子力災害は、未来へと続く、終わりのなき災害です。地域の暮らし、産業、営みを奪い、中断させ、将来に亙り、負の遺産を継承させます。しかし、災害をあげつらうだけで未来は拓けない。地域の回復のためにいまできることを。その人々の思いは、すべての地方が目指すべき地方の未来像を拓きつつあります。本作品は、原子力災害を教訓に果敢に地域の新生に挑む人々の証言から、児童、生徒、学生、社会人が共に地方の未来を考えるための地域教育教材です。

内容

(1) いわき市薄磯海水浴場 7年ぶりの海開き

津波と原子力災害に見舞われた、いわき市薄磯海岸。海水浴のメッカとして日本渚百景にも選ばれる美しい海岸だった。その海の町、薄磯区、豊間区、沼ノ内区は、漁業と水産加工、蒲鉾製造、そして海水浴やサーフィンの観光が地域の産業だった。震災から6年が経過し、そこに海水浴場が返ってきた。

地域でつくる「海まちとよま市民会議」の7年振りの海開きへ向けた取り組みを追いながら、海と共に生きる町の人々が地域に誇りを持ち、再生へ向けて歩み出す姿を紹介。



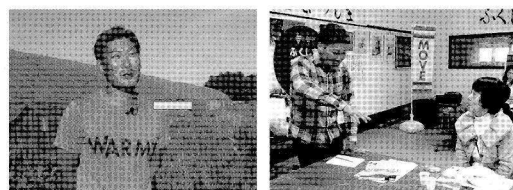
(2) 漁師たちの挑戦

福島県の漁業は、原子力災害後、1年間の自主操業停止から、いまでも週3回の試験操業を余儀なくされている。収穫魚種は、放射能検査を通過したものしか市場に出せないため、扱える魚種も増えつつあるが、限られている。それは同時に、漁業からの離散や廃業を生みつつあった。だが、漁ができない時間が、これまで操業だけだった漁師たちの目を大きく開かせた。漁師自ら相馬の魚の魅力を発信。水産加工にも参加。相馬の魚を中心にしながら、地域観光にも貢献している。相馬双葉漁協で青壮年世代をまとめる地域リーダーが、これからの漁業の未来、地域の将来へ向けて取り組んでいる挑戦を紹介。



(3) 農家青年の挑戦

原子力災害は、福島県産の農産物にも大きな打撃を与えた。自然環境と共にある農業生産。それを強く自覚する中、これまでの流通だけに頼らない、有機農業が注目を集めている。震災後、自然農法にこだわり、自然をできるだけ壊さない人にも、生き物たちにもやさしい農業を実現しようとしている農家青年を紹介。漁業や他の一次産業とのつながりを拓き、相馬でしかできない農業、相馬だからできる農業によって、衰退しつつある農業の転換と地域ならではの伝統野菜、養鶏に取り組む挑戦の姿を紹介。



監督・構成 秀嶋賢人

企画・制作・著作 フォア・ザ・ワン・プロジェクト <http://www.hideshima.co.jp>

制作協力 特定非営利活動法人 Social Net Project MOVE

2018年作品

p.

●お買い上げは……

北辰映像株式会社

〒350-0461 埼玉県入間郡毛呂山町中央 3-32-3
TEL:049-298-5792 FAX:049-298-5793
E-mail: co@hokushineizo.com